東京湾のミヤコドリ・7　「カムチャツカ半島で繁殖したミヤコドリが日本に渡来したことがカラーフラッグの調査により初めて判明しました」 山階鳥類研究所から発表

昨年12月号の本ページで「速報！ 三番瀬に標識フラッグ付きのミヤコドリ」としてお知らせしました観察について、12月19日、(公財)山階鳥類研究所から詳細が発表されました。その概要を紹介します。

三番瀬の標識個体

2019年9月25日に、千葉県船橋市の三番瀬干潟で、左足に〔黒・黄色のフラッグ・刻印T６〕と右足に足環のついたミヤコドリを、当会幹事の田久保晴孝さんが発見。また翌27日には、三重県津市の安濃川河口で〔T７〕のフラッグをつけた個体が観察されました。

山階鳥類研究所がカラーフラッグと足環の情報で国際的に照会したところ、それらは、2019年7月15日に、ロシア連邦自然資源環境省全ロシア環境保全研究所のD・ドロフェーエフ主任研究員によって、カムチャツカ半島西岸のハイリュゾヴァ・ヴェロゴロバヤ河口 (57.07N,156.69E) で、まだ飛べないヒナの状態のときにカラーフラッグ等を装着された３羽のうちの２羽ということがわかりました。

これまで、日本に渡来するミヤコドリの繁殖地や渡りのルートは不明でしたが、今回の標識個体の観察で、その一端が明らかになりました。

三番瀬・安濃川河口とも、その後も観察・撮影されていて、三番瀬では越冬すると思われます。

今回の足環装着場所と渡来地
〔山階鳥類研究所提供〕

今冬の三番瀬の飛来数はこれまでの最大の425羽（12月1日調査）が記録され、右肩上がりの傾向が続いています。

なお、この件については、1月9日付朝日新聞の「千葉・首都圏版」で報道されました。

［ミヤコドリのプロフィール］

都鳥・Oystercatcher・*Haematopus ostralegus*

おもに二枚貝を主食とするチドリ目の水鳥で、日本各地の海岸、干潟に少数渡来する冬鳥または旅鳥です。かつては“珍鳥”と呼ばれ、その姿を追い求めるバードウオッチャーが多数いました。現在は、東京湾に400羽以上、伊勢湾に100羽以上が毎年越冬しています。

世界的にはユーラシア大陸からアフリカ大陸などに広く分布し、4つの亜種が知られています。日本に来るのは *H.o.osculans* とされ、繁殖地はカムチャツカ半島、韓国西岸、中国渤海湾沿岸などが知られています。しかし、その数は10,000羽程度と思われ、その保護は重要と考えられます。東京都のレッドリストでは「絶滅危惧ⅠB類(EN)」になっていますが、環境省のレッドリストでは指定されていません。